

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月25日(木)

会場:粟屋コミュニティセンター

参加者数:9人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>高谷山には、県内外から多くの来訪者があることから、駐車場や登山道の整備、小型バスが上げられるような市道の拡幅を、地元と行政が連携できれば、魅力ある観光資源になると思う。市内に宿泊して、朝早く高谷山に登り、作木の常清滝などを周遊するなど、点と点を線でつなぐエコツーリズムを推進してはどうか。</p>	<p>高谷山の「霧の海」は、観光資源として定着している。山頂にカメラを設置し、人が来る時期や時間帯などのデータを取り、観光戦略の参考にしていく。私も、初日の出を見るため、高谷山に登っているが、コロナ前は粟屋自治連合会を中心に、地元の方が豚汁を作るなどのおもてなしをされていた。地元の協力により、高谷山の景観が保たれている。地域の皆さんと一体となった取組を進めていけるように、アイデアを出していく。 今年4月に、本市の観光窓口を「三次観光推進機構」に一本化し、自然や文化や観光施設などを結びつけたプログラムをつくって発信している。庄原市等と観光の広域化を図り、備北エリアにおける滞在時間を延ばし、観光消費額を上げていく取組を進めている。また、エリア全体の魅力を高めていく。</p>	
<p>デジタル化を進めることにより、若い人が住みやすい街になる。高齢者には使いにくく、難しい面もあるが、実証実験をしながら、市民に周知してほしい。マイナンバーカードの取得に向けて、市も取り組まれており、マイナンバーカードを活用したまちづくりができればいいと思う。</p>	<p>マイナンバーカードの普及が進むにつれて、できることも増えていく。将来的には、マイナンバーカードと保険証、免許証を一体化させて多目的利用をしていこうと言われており、その利便性を市民の皆さんに情報提供しながら、一人でも多くの方が取得できるように、支援していく。市長会を通じて国へ要望するなど、マイナンバーカードの利便性向上に取り組んでいく。</p>	
<p>亀谷大平線の市道改良について要望しているが、未改良部分が残っている。道路整備がされてないため、若い人が市街地に出て行く。粟屋地区のまちづくりのためにも、市道整備をお願いしたい。</p>	<p>道路は地域に欠かせないものであり、計画的に市道改良を実施していく。災害復旧工事を優先して行っていたため、これまでの市道改良が遅れていた。今後は、一般工事も行えるようになる。</p>	
<p>婚活事業を8月に計画していたが、コロナのため延期となった。結婚支援グループを立ち上げ、担当課と連携している。総務省のアンケートでは、女性と話をしたことがない40代の男性が4割いると発表されたが、本市も同様の状況である。開催したイベントには、県内各地からも参加されている。将来、三次に住んでもらうために、本市の子育て支援の講座を行うなど取り組みを行っているが、ボランティアであり、活動費が厳しい。</p>	<p>晩婚化が進み、独身の男女が増えていることが少子化につながっている。結婚支援グループの皆さんには、地道な取組をしていただいている。事業費については検討させていただきたい。出会うきっかけは大事であるので、今後、担当課を中心に取り組んでいく。</p>	
<p>馬行谷地区には、圏外で携帯が通じない地域があるので、解消してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業に対して、解消に向けた要望を行った。携帯電話基地局整備を要望している段階であり、これからも市から事業者へ伝えていく。 ・本市は、ソフトバンクと連携協定を締結している。携帯電話が入らない場合、日常生活で困ることもあるので、要望を続けていく。 	
<p>・馬行谷地区には18戸あるが、75歳以上の世帯が多く、消滅集落になりそうである。その対策について聞きたい。 ・常会では、毎月集まって話をしてきたが、現在、協議事項もなく、来年は集会をやめるという話も出ている。また、常会の活気がなくなっており、後継ぎのいない家も多く、集落そのものがないおそれがある。常会がなくなると、横のつながりがなくなり、危機管理上の課題が露呈する。このことは、市全体の問題であり、今のうちに対策をしてほしい。</p>	<p>集落の維持は、市全域の大きな課題である。日常的な付き合いから、災害時等において、危機管理上の声かけなどのコミュニケーションがとれる。本市の高齢化率は36%であるが、生きがいをもって、地域で暮らせるように、自治連合会と連携して取り組んでいく。</p>	

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月25日(木)

会場:粟屋コミュニティセンター

参加者数:9人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>ジモティーを活用した草刈りの実証実験については、どのような手続きをすればいいか。高齢化により、草刈りができないのは、市全体の問題である。市道の草刈りをどこまでしてもらえるのか。</p>	<p>市土木課が窓口になっている。草刈りをしてほしい人と草刈りをしてほしい人とをマッチングするものであり、ジモティーのサイトに登録する必要がある。現在は、本格的な運用に至っていない。しかし、市内では、時間的な余裕があり、草刈りのできる人が潜在的にいると思う。ジモティーのサイトを通じて労働力の掘り起こしを行う。</p>	<p>【ジモティーとは】ジモティーは、株式会社ジモティーが運営する地域の情報サイト。カテゴリー別に、利用者の目的に応じて分類された情報が掲載され、利用者は無料で情報交換をすることが可能。今回の三次市における実証事業は、草刈りの労働力を必要とする地域住民と作業を手伝える方のマッチングを促進する実証事業の実施として、全国初の取組である。</p>
<p>・市では、希少動植物保護条例を制定された。県条例には罰則はあるが、市には罰則がない。君田地区には、「ギフチョウ」がいるが、突然変異種が出てきている。なお、神之瀬峡には「サンインシロカネソウ」が、秋町には「セツブンソウ」などがある。それらを無断で取る人がいる。「ギフチョウ」に関しては、市に看板設置を要望したが、回答がない。開花の時期になると、特別な保護がされていないことから、取っていく。注意喚起しているが、10年後には希少種がいなくなるおそれがある。地域の方が守ろうと頑張っているの、行政も対応してほしい。保護していくべきものは、委員会等を開催し、見直しをしてほしい。 ・「ギフチョウ」は、県条例への格上げを検討してもいいのではないか。</p>	<p>・神之瀬峡の環境保全の取組では、地道に活動をされており、環境大臣表彰を受けられた。今ある生態を未来につなげていくことは我々の使命である。現状を、条例に照らし合わせながら、検証していく。課題と看板設置の件については、後日、市担当課より回答する。 ・「ギフチョウ」に関する、県に格上げをという提案については、調査していく。</p>	<p>後日、担当課で対応。</p>
<p>・ジモティーの取組は面白く、草刈り以外にも子育てや介護などの分野にも活用できるのではないかと。 ・JR芸備線について、広島市・安芸高田市・三次市・庄原市の4市が歩調を合わせなければならない。上下分離をする方法で、芸備線、福塩線、伯備線の3線について、三次市を中心にした第三セクターによる運営を考えてはどうか。観光資源としてJRを活用する。西三次駅から高谷山をハイキングコースにすることや、安芸高田市の甲立駅から大土山を散策コースにすることも面白いのではないかと。 ・JRに関しては、県に舵取りをってもらう方がいい。</p>	<p>・ジモティーは汎用性があることから、様々な活用方法ができると思う。社会課題を解決できるようであれば、積極的に活用したい。 ・上下分離方式については、一つの手段として捉えている。本市だけではなく、沿線自治体が意識を一つにしなければ、その手法を取り入れることはできない。現在、地域公共交通に対する関心が高まりつつあり、地域の皆さんと話を進めていく。国による法律の整備や支援策などについて見極めながら、今後の地域公共交通のあり方を模索していきたい。 ・広島県や岡山県が関わることもあることから、連携していく。</p>	
<p>市道の草刈に関して、ジモティーもいいが、できれば高齢者の活動の一助ということで、シルバー人材センターに委託してほしい。例えば、常会からの委託を受け、市道の草刈りをしているので、利用してほしい。</p>	<p>ジモティーは労働力が足りないところを補完するために取り入れる。競合しないように、今後、工夫していく。市道の維持管理の委託を受けて、綺麗にしている。このようなシルバー人材センターの皆さんの力は、地域において必要不可欠である。しっかりと連携する中で、シルバー人材センターなどができないところをジモティーが補完していく。</p>	